

◎ 次の問いに答えなさい。

(1) 世界における日本の位置や地形、気候を説明する次の文の空欄①～⑤にあてはまる適語を答えなさい。

日本列島は、北海道から九州にかけて中央部に背骨のように山脈が連なっている。代表的な山脈が東北地方を東西に分ける(①)山脈である。日本の気候帯は東京に代表されるように、主に(②)に属しているが、山脈や夏と冬で吹く方向が逆になる(③)、緯度等の影響で様々な特色ある気候が見られる。例えば北海道は冬が長く寒さが厳しい。また、沖縄などの南西諸島は夏が長く冬も暖かい。北海道を除き6月ごろ前線が停滞し(④)となり、雨が多い。また、夏から秋にかけて(⑤)が多く、農作物に大きな被害の出ることもある。

(2) 日本の産業について以下の問いに答えなさい。

- ① 関東地方の南部から九州地方の北部にかけての海岸沿いに工業地帯や工業地域が広がっている。これを何と呼ぶか、答えなさい。
- ② 2019年度、量の多少はあるものの47都道府県すべてで生産され、生産量の1位が新潟県、2位が北海道、3位が秋田県の農作物は何か、答えなさい。
- ③ 工場で作られた製品や漁港に水揚げされた魚、水田や畑でとれた農作物を消費者に運ぶため、交通網が整備されているが、そのうち東京と名古屋を結ぶ高速道路を何と呼ぶか、答えなさい。

(3) 資源・エネルギーについて説明する次の文の空欄①・②にあてはまる適語を答えなさい。

エネルギー自給率の低い日本では、資源量に限りがあり、環境汚染の原因となったり、温室効果ガスを発生し(①)の原因になったりする石油や石炭などの鉱産資源の使用を見直し、太陽光や風力、地熱などのエネルギーを利用する取り組みが行われている。この太陽光や風力、地熱などのエネルギーのことを(②)エネルギーという。

解答欄

(1)	①		②		③	
	④		⑤		/	
(2)	①					
	②					
	③	高速道路				
(3)	①		②			

組 番 名 前

◎ 次の資料を見て、以下の問いに答えなさい。

資料1 () の収穫量の順位(2018年)

順位	都道府県名	収穫量(t)
1	青森県	445,500
2	長野県	142,200
3	岩手県	47,300
	：	
	千葉県	0
合計	全 国	756,100

「作物統計調査」(農林水産省)を基に作成

資料2 () の収穫量の順位(2018年)

順位	都道府県名	収穫量(t)
1	和歌山県	155,600
2	静岡県	114,500
3	愛媛県	113,500
	：	
	千葉県	1,260
合計	全 国	773,700

「作物統計調査」(農林水産省)を基に作成

資料3 ねぎの収穫量の順位(2018年)

順位	都道府県名	収穫量(t)
1	A	62,600
2	埼玉県	55,500
3	茨城県	49,900
	：	
合計	全 国	452,900

「作物統計調査」(農林水産省)を基に作成

資料4 落花生の収穫量の順位(2019年)

順位	都道府県名	収穫量(t)
1	A	10,100
2	茨城県	1,390
合計	全 国	12,400

「作物統計調査」(農林水産省)を基に作成

(1) 資料1と資料2はそれぞれどんな農産物の収穫量を表していますか。農産物名を答えなさい。

(2) 資料3と資料4の空欄Aには同じ都道府県が入ります。その都道府県名を答えなさい。

解答欄

(1)	資料1		資料2	
(2)				

◎ 自然災害とそれに対する取り組みについて、次の問いに答えなさい。

(1) 日本の災害について、次の文の空欄①～⑥にあてはまる適語を答えなさい。

大地の動きの活発な地域にある日本列島は、(①)が多く、各地に分布する(②)の活動も活発で噴火活動も起こる。大きな(①)が起こると、ゆれとともに、土砂くずれや地盤の(③)なども起こる。大きな(①)の震源が海底の場合は、(④)が発生することもある。2011年3月の東北地方太平洋沖地震では、沿岸部に押し寄せた10mをこえる(④)などにより、千葉県を含む広い範囲にさまざまな災害を同時に引き起こした(東日本大震災)。

また、日本は毎年のように気象災害にも見舞われる。(⑤)や(⑥)、集中豪雨(局地的大雨)などでは、洪水や土石流、土砂くずれなどの災害が起こる。(⑥)では、強風や高潮の被害も起こる。2019年9月の(⑥)では、千葉県にも南部地域を中心に大きな被害をもたらした。その他にも、干ばつによる水不足、低温による農作物に被害が出る冷害、大雪による雪害などがみられる。

(2) 災害対策について、空欄①～④にあてはまる適語を答えなさい。

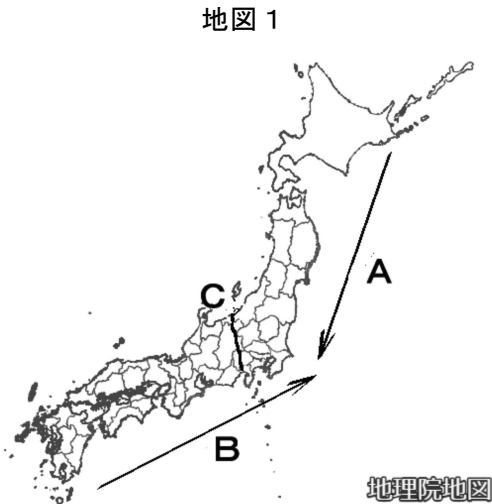
国や都道府県、市区町村では、災害時の被害を防いだり、できるだけ減らすという防災・減災の考え方のもとに防災計画を立てている。災害が起こったときの対策の一つとして、災害時の被害予測を示した地図である(①)を作成している。

自然災害から身を守るためには、国や都道府県、市区町村による被災者の救助や支援といった防災への取り組み(②)だけでなく、自分自身や家族を自分で守る(③)や、同じ地域に住む住民同士が助け合う(④)とよばれる行動が求められている。

解答欄

(1)	①		②		③	
	④		⑤		⑥	
(2)	①					
	②		③		④	

◎ 次の地図を見て、以下の問いに答えなさい。



地理院地図（電子国土 Web）を加工して作成

地理院地図（電子国土 Web）を加工して作成

- (1) 地図1のA, Bの海流名を答えなさい。
- (2) 地図1のA, Bの海流の会う太平洋の銚子沖は世界的な漁場となっている。その理由を簡潔に答えなさい。
- (3) 地図1のCの糸魚川市から松本市，甲府盆地から駿河湾にかけての地域を境に東日本ではほぼ南北方向に山脈が伸びています。この境目を何というか，片仮名で答えなさい。
- (4) 地図2のDの海岸線は入り組んでいて複雑な地形をしています。このような海岸を何というか，答えなさい。

解答欄

(1)	A		B	
(2)				
(3)				
(4)				

<基本問題①>

- 【解答】 (1) ①奥羽 ②温帯 ③季節風(モンスーン) ④梅雨 ⑤台風
(2) ①太平洋ベルト ②米 ③東名 (新東名も可)
(3) ①地球温暖化 ②再生可能

【解説】○ 奥羽山脈以外にも日本アルプスを構成する飛騨山脈、木曾山脈、赤石山脈等の主な山脈や山地、関東平野等の主な平野、信濃川、利根川などの主な河川の名称と位置を地図帳を見て確認しておきましょう。

日本の気候は全体的には温帯に属し、北海道は冷帯の気候、沖縄等の南西の島々は亜熱帯の気候の特色が見られます。季節により吹く向きが変わる風を季節風(モンスーン)と呼び、日本付近では、夏に南東から、冬は北西から吹きます。また、一年中西から吹く風を偏西風と呼びます。天気が西から東に移り変わることが多いのは、偏西風の存在が大きいのです。

<基本問題②>

- 【解答】 (1) 資料1 りんご 資料2 みかん
(2) 千葉県

【解説】○ 資料1は、その農作物のとれる県の位置が全て涼しい地方で、涼しい気候に適した農作物であることが、逆に資料2は暖かい気候で作られている農作物であることがわかります。

資料3や4は千葉県が1位の生産量を誇る農作物であり、これ以外に千葉県の生産量が1位の農作物には、ねぎ、ほうれん草、かぶ、みつば、しゅんぎく、さやいんげん、日本なし等(2018年度)があります。

<基本問題③>

- 【解答】 (1) ①地震 ②火山 ③液状化 ④津波 ⑤梅雨 ⑥台風
(2) ①ハザードマップ(防災マップ) ②公助 ③自助 ④共助

<応用問題①>

- 【解答】 (1) A 千島海流(親潮) B 日本海流(黒潮)
(2) 寒流である千島海流によって泳ぐ魚と、暖流である日本海流によって泳ぐ魚の両方がとれるため。
(3) フォッサマグナ
(4) リアス海岸

<応用問題②>

【解答】 日本の食料自給率は年々低下しているが国民の意識としては多少高くとも国内で食料を作る方がよいと考えている人が増加している。(60字)

【採点基準】

採 点 の 基 準
(文字数) ・ 45字～60字で、配点通りに与える。 ・ 35字～44字で、配点の8割程度与える。 ・ 34字未満は、配点の5割程度与える。 (内容) ・ キーワードがすべて使われていないものは、不正解とする。

<応用問題③>

【解答】 資料によると、50年後、1人の15～64歳の人たち(働き手)で1人の高齢者を支えなければならない超少子高齢化社会になることが予想されている。だれでもが安心して子育てができるような社会にして少子化に歯止めをかけなければならない。そのため、国や地方自治体が保育所の充実、子どもの医療費や学費の補助をし、会社は子供を産んだ女性が職場復帰できるように仕組みを整え、さらに一方、高齢者にも生き甲斐を持って社会を支えてもらうために65歳定年制を導入する。(220字)

【解説】 ○ 問題点として、少子高齢化社会が問題という視点だけでなく、50年後少子化に改善の方向が見られず、さらに少子高齢化が急速に進んでいくという予測が出ていることが問題であることにも触れることがポイントです。

【採点基準】

採 点 の 基 準
(文字数) ・ 180字～220字で、配点通りに与える。 ・ 160字～179字で、配点の8割程度与える。 ・ 160字未満は、配点の5割程度与える。